

第1回 市庁舎整備懇談会

日時 平成20年11月7日(金) 10時00分～11時30分

場所 本能寺会館 5階 ホール

出席者(五十音順, 敬称略)

石田潤一郎	京都工芸繊維大学大学院教授
川七ひとみ	市民公募委員
木田喜代江	公認会計士
栗山 裕子	京都府建築士会理事
鈴木 祥之	立命館大学教授
高山 弘	行政書士
中井 歩	大阪樟蔭女子大学准教授
中島 康雄	京都市総務局長
藤本 英子	京都市立芸術大学美術学部環境デザイン研究室准教授
細田 茂樹	市民公募委員
門内 輝行	京都大学大学院工学研究科教授
渡部 隆夫	ワタベウェディング株式会社社長

欠席者

池坊 由紀 華道家元池坊次期家元

1 開会

2 門川京都市長挨拶(要旨)

- 委員就任及び出席の御礼
- 建替は、学校・区役所を先行させてきた
- 市役所庁舎整備の必要性
 - ・危機管理対策の観点から
 - ・バリアフリーの観点から
 - ・市民と行政の新しい関係、市民と共に汗をかく「共汗」、市政に参画してもらう機能
 - ・国際都市、観光都市京都にふさわしい市庁舎
- 豪華なものはないが機能は必要
- 危機管理、バリアフリー、執務室の効率化がポイント
- 中途半端な整備にしたくない。とりあえず耐震補強のみ行うという考えもあるが、長いスパンで見れば、二重投資となる可能性がある
- 英知を集めていただき、50年・100年先を見通した議論をお願いしたい

3 委員紹介

(事務局から説明)

4 座長の選出

門内輝行委員が推薦され，全会一致で座長に選任された。

5 副座長の指名

鈴木祥之委員が副座長に指名された。

6 市庁舎整備の基本的な考え方骨子（案）について

(事務局から説明)

7 意見交換（要旨）

市庁舎整備の今後のあり方，目指すべき方向性，課題の解決等に対する所感について。

<委員>

- 平成11年の学術調査に関わった。現在，残っている他都市の庁舎は，激しい戦災の中で残ってきたものであり，シンボリック的価値がある。京都市役所庁舎もデザイン的にも歴史的にも，シンボルとして存在している。

<委員>

- 本庁舎は，シンボルとして残すほうがいいと思ってきたが，財政難の中では，残すことによって大変なお金がかかるというなら，残さないという選択肢もあるのかな，と思う。

<委員>

- 今まで放置してきたのかと思えば，10年以上前に既に懇談会が開かれていたとのこと。その時点での議論を再確認し，そのうえで付け加えるものがあればという形で議論すべき。
- 庁舎整備に着手できていないのは，財政問題が理由。その財政状況を克服する方法を模索しない限り，整備は進まないと思う。

<委員>

- ハード面の話題になった時にユニバーサルデザインの観点から意見を言いたい。
- 立案段階，考え方の段階からユニバーサルデザイン等の情報を入れていきたい。
- 前回懇談会からの10年間で，ハード面だけでなく，ソフト面（IT化等）で変わった部分をフォローしながら議論すべきである。

<委員>

- 国際文化観光都市である以上、宗教家も委員に入れて意見も聞くべきではないか。
- 職員定数や議員定数の削減も検討すべきである
- 耐震性能の不足には驚いている。
- 狭あい化については、本当に車椅子で移動しにくいのを実感している。
- バリアフリー化は是非ともお願いしたい。
- 執務室の分散化を減らして、一箇所にまとめる構想をお願いしたい。
- 財政事情からの検討も必要。

<委員>

- 区役所が総合庁舎化しており、区と本庁の役割（業務）分担の見直しを行うことも必要ではないか。

<委員>

- 市庁舎問題は、緊急事態である。
- 市民に密着したサービスでは区役所への分担、区役所の活用を図るべき。
- 市民のための市役所としては、そのスペースの確保することよりも、ソフト面のサービスを向上させることが重要ではないか。
- 議場については、どこかで意匠を残しつつ、IT化等新しい機能も必要ではないか。伝統工芸等を活用しながら新しいものを作るのもいいのではないか。
- 国際化への対応の見本となるような庁舎にできればと思う。

<委員>

- 市役所の建物はすばらしい。国際都市京都の誇るべき形である。
- 執務状況の実情には大変驚いた。
- 国際文化観光都市京都の象徴となる市庁舎にしたい。
- 前回の懇談会とどのように繋がっているのか、本懇談会の位置づけを知りたい。
- 外ビル執務室の管理にどれくらいの経費がかかっているのか。

<委員>

- 建替えは、緊急を要するものと理解している。
- 10年前の懇談会と今回の懇談会の整合性を議論すべき。
- 前回懇談会の提言4で「現在地で進めることを基本とするが同時に京都市の北部と南部を一体化する構想のもとに、市南部地域の整備を進め、京都市の発展に応じて、南部移転を考慮する」とされており、これを踏まえ南部移転を考慮する必要がある。
- 保存と開発の問題があり、都市の基本計画と市庁舎整備は密接な関係にある。経済の発展は大事なことで、南部も考える必要がある。
- 南部地域は土地の高度利用が可能、地下鉄竹田駅車庫は立地条件がよい。

- 立地ということをしっかり考えていかねばならない。
- 現地での建替えの場合、建替え期間中の仮移転等費用が膨大である。新立地の方が効率的で、高層化すれば執務室も一体化でき、市民サービスにもつながる。
- 議員定数の減も議論すべき。

<委員>

- 耐震性能の低さには驚いた。耐震改修設計案はできているのか。
- 新しい庁舎を建てる場合には、木造化を検討に入れてほしい。
- 木造新庁舎をシンボルとし、京都の誇りとするとともに、京都を木造建築都市として発展させていきたい。

<委員>

- 京都市の財政の平成23年度までの見通しでは、964億円の不足が見込まれ、職員削減や事業の見直しを検討しているがまだ320億円足りない状況にある。964億円の算定には市庁舎整備の費用を見込んでいないので23年度までは着手することはできない。
- 市庁舎整備基金は115億円あるが、114億円を一般会計に貸し出しており、財政的に非常に厳しい状況にある。
- 経費については、庁舎全体の耐震改修（設備修繕）のみの場合は、約70億円と見込まれるが、狭あい化、バリアフリー化、執務室の分散化等の課題は解消されず、本庁舎・北庁舎を耐震補強し、西庁舎を建替え、分庁舎を建設した場合、概算で約160億円程度必要。
- 耐震改修のみを実施し、将来的に課題を残したままにしておくよりは、建替えを含めた整備を行う方が、経費はかさむが長いスパンで見れば、得策であると考えます。
- 整備のチャンスが来れば、いつでも着手できるように整備案を準備しておきたいと考えている。

<事務局>

- 幅広い分野の方から意見を聞く必要があるため、多方面から委員に入っている。また、必要があれば、要綱で「座長は委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる」となっているので、今後検討願いたい。
- 前回の懇談会での提言を踏まえ検討してきたが、財政状況から事実上ストップしていた。しかし、耐震性能など避けられない課題があり、検討を進めることとした。耐震改修だけをした場合でも約70億円必要であり、併せて建替え、分庁舎整備等も検討することとした。
- 整備場所については、現状では、南部に適当な場所がないことや、現地が交通至便が良い等の理由により、議会において、現地での建替えが現実的であるとの答弁を行っている。
- 職員定数については、別途削減を検討しているが、必要面積の算定には現行をもとに積算した。
- 市庁舎全体の年間維持管理は約6.5億円で、うち外ビルには約2.8億円費やしている。
- 市民に身近な業務は、できるだけ区役所で済むように、大区役所制を進め、併せて区役所の総合庁舎化を市庁舎整備より先行して進めている。

- お示した I S 値は、各建物で最も低い箇所の数値であり、全体がぼろぼろで今にも倒壊するというものではない。

<門内座長>

- 前回の懇談会との関係が大切であるが、社会的状況との関係では大きな変化がある。
前回の懇談会では、北部と南部の関係が相当議論されており、今回再議論となると時間が足りない。
提言でも「まず現在地で進め、市の発展に応じて南部移転を考慮する」となっている。
- 市庁舎はインパクトのある建物で、都市ビジョン、都市の景観政策との関係が大切。
- 今後の懇談会議論を進める上でのポイント。
 - ・ 前回の議論を踏まえつつ、象徴的ないいものを目指す
華美なものではなくて機能的に優れていて、地球環境、低炭素社会を考慮したもの
 - ・ 50年後、100年後の大きなビジョンを考えつつ議論する
 - ・ 都市ガバナンスの新しい形態を考える
市民の役割が変化してきており、都市を形成している力（市民、行政、企業）の関係性が変わってきている。
「集中と分散」をどのようにするかを中長期的視点で考える。
 - ・ 安心安全（セキュリティ）が大きなテーマ
耐震化を含めた安心機能と市民の心の支えとなるような庁舎
 - ・ 環境モデル都市を目指す上で環境への配慮が大きな課題
 - ・ 建替え途中のプロセスプランニングが大切

9 閉会